

こんにちは！ 私たちが担当です。

【相双地区センター】

小規模のメリットを生かした
即決力と適応力は負けません！



相双地区センターは、いわき市と仙台市の中間に位置する、人口約7万人の南相馬市にあります。国の重要無形民族文化財に指定されている相馬野馬追の祭場地や世界サーフィン大会が行なわれる北泉海岸がある地域でもあります。職員数は約80人(約90%が女性)で、当協会の県内にある地区センターの中では規模が最小です。

当センターには、3つの課があります。

まず検査課ですが、全員が臨床検査技師で、主に心電図検査・採血業務を担当し、学校健診の尿・寄生虫検査や小児生活習慣病検診も担当しています。現場では、開始前のミーティングでは、白衣を着て透き通るような美声(鼻声?火声?)で、現場監督として采配を振るついています。目立った存在ですので、すでに顔と名前が一致するという方が多いと思います。

検査課、放射線課、事業課…

3つの課で個性的な職員が活躍！

次に放射線課ですが、全員が放射線技師で、胸部レントゲン写真撮影やバリウムを飲んで実施する胃部レントゲン写真撮影が担当です。狭い検診車内での作業が中心となり、外に出てくる機会が少ないので、白衣を着た見慣れない者がいたら、放射線技師かもしれません。事務所に戻ると、撮影フィルムの読影管理とチェック、暗室内での現像処理等を行っています。それゆえ、仕事場があまり目立たない所になってしまいがちです。

最後に事業課ですが、いわゆる営業課です。多様な資格をもった職種の者がいて、健診の入口から出口までの全般にかかわっています。健診の計画、打合せ、会場確認、スタッフ分担割り当ての決定、検診車の運行、

また子宮がん施設健診の検体収集や、医療機関への心電図・眼底検査等の読影依頼及びその回収など「何でも屋」的なところがあります。外回りをしている者への事務所からの連絡で、「〇〇病院へ寄って読影書類を回収して来て下さい！」との連絡は、常となりつつあります。

最後に、相双地区の地域健診で行われている、通称「0番業務」を紹介いたします。これは、市町村の総合健診等で行なうもので、受診される方から当日の希望項目を聞き取り、保険証・受診券の確認をして、質問事項の漏れや記入間違いを拾い上げ、受付(これが1番となる)スタート前に不備をつぶしてしまおうという業務です。これにより健診の流れをスムーズにして受診項目のものを無くすことができます。各市町村のご担当の方々には、この0番業務にご理解とご協力をいただき、とても感謝いたしております。

当センターは、職員数の割には個性派職員が多いのですが、規模が小さいというメリットを生かし、即決力と適応力はどこにも負けないものと思っております。

(文責 服部修作)

